

被災地支援の取り組み



よどがわ本部からみやぎ生協に出発

3月22日(火)朝9時30分、生協本部にて役職員による出発式の後、約880kmの彼方にある宮城県仙台市のみやぎ生協に向けて支援物資を積んだトラックで出発しました。

<第1陣でお届けした支援物資>

お菓子80ケース、水20ケース、タイ産バナナ20ケース、役職員提供のおむつやカイロなどの支援物資



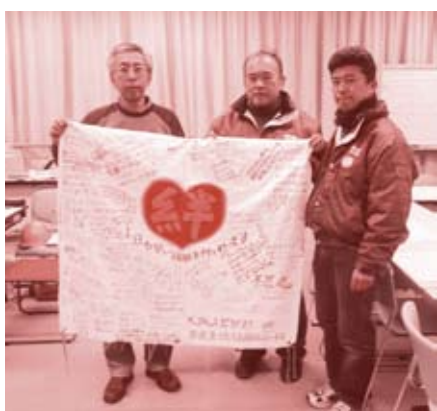
被災したみやぎ生協本部

3月23日(水)の朝、被災地に入りました。みやぎ生協でも正規職員4名が津波によって亡くなられ、パート職員300名の安否が不明のままとのことでした。



避難所用おにぎりを届けた中継所

よどがわ生協からの物資をお届けした後、避難所用食料を中継地点まで届けたり、支所へ支援物資を届けるなどの任務に着きました。



みやぎ生協にメッセージをお渡ししました

一日も早く復興し、一人でも多くの方々の暮らしが再建できるよう、私たちはこれからも支援を続けます。

津波の被害の大きかった若林区へ向かいました。海岸から2キロ以上離れている地域まで行くことができましたが、津波で流されてきた車や柱や壁などの瓦礫が辺りに散乱していました。想像を絶する惨状に言葉がありませんでした。これより海岸に近い地域では更に被害が大きく、汚泥と漂着物で進入できない状況でした。



津波で被害のあった仙台市若林区

ほんの数日前には、私たちの地域と同じようにここに街があり、沢山の人が住み暮らしたのに、その全てを一瞬で奪った地震と津波の規模の大きさ、悲惨さを目の当たりにしました。

東日本大震災で被災された方々に 心よりお見舞いを申しあげます

3月11日(金)発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0という巨大地震と大津波で、戦後最悪の災害となりました。犠牲者の方々に悔やみを申しあげますと共に、被災された皆様は心よりお見舞いを申しあげます。
被災地では道路や港などの復旧が徐々に進み、仮設住宅の建設も始まりつつありますが、死者・行方不明者の確認数は日々増え続け、くらしに必要な電気・水道・ガス・食べ物などがストップしている地域は多数あり、放射性物質への不安など深刻な状況が続いています。よどがわ市民生活協は、中長期的な構えで被災者と被災地生協の支援に引き続き取り組んでいきます。

よどがわとしての考え方

よどがわ市民生活協は、基本方針で「生命(いのち)とくらしや健康を守る」ことを掲げています。今こそ組合員同士の「協同」「共助」や生協間の連帯を強め、被災者の生命(いのち)とくらしや健康を守る取り組みを最大限に進めます。

- (1)被災地(者)の支援要望に第一に応える立場で、最大限の取り組みを行います。
- (2)日本生協連や、コープ共済連などの支援要請に基づき行動します。

これまでの取り組み

- 3月14日 注文書と店舗で募金受付開始
- 3月15日・16日 コープきんきからみやぎ生協へ「マイクロファイバー毛布」7310枚
- 3月22日・24日 役職員2名がみやぎ生協へ支援物資のお届けと、支援活動(第1陣)
- 3月26日 組合員から支援物資提供を受付(受付は終了しています)
- 3月31日・4月2日 役職員2名がみやぎ生協へ支援物資のお届けと、支援活動(第2陣)
- 4月3・8日 職員1名がみやぎ生協の配送支援

今後の支援予定

●募金、被災地生協への人員支援などに取り組めます。
※支援の取り組みについては、毎月発行の機関紙「配達チラシ」、よどがわホームページなどで報告します。

募金方法

班・個配

- 注文書(マークシート)の「募金・カンパ欄」にご記入ください。
- インターネット注文・eフレンズは注文番号「1416」番で受付します。

募金金額をご記入ください
「1」と記入すると、100円の募金となります。



店舗

店頭には募金箱を設置しています。

寄せられた募金は日本生協連で集約し、被災地各県の生協連合会から行政を通じ、被災者の皆さまへお届けします。

